

Q. 本プログラムを受講されたきっかけをお聞かせください

<2020 年度修了者>

- 仕事に行き詰まっていたため
- リーダーシップ能力開発に必要なカリキュラムを学ぶため
- 立教大学の授業を参観し、リーダーシップ開発について学びたいと考え、インターネットで調べたところ、本講座を知ったため
- 今後、社会の様々な現場で若者のリーダーシップが必要となると思い、その開発手法を身につけたいと思ったため
- 自部署の組織開発に生かしたいと思ったため

<2021 年度修了者>

- 自身の開発した非認知能力開発に寄与する授業プログラムの検証（アカデミックなエビデンス等）と深掘りのため
- リーダーシップ開発・組織開発への興味関心と同僚からの勧め
- 自身のマネジメントや会社の成長性に悩みを持っていた
- 受講を通じて、自分の適性・能力とも向き合いながら他者のリーダーシップを開発する能力を伸ばしたいと考えたため
- 企業の人事部門で社内人材開発を担当しており、実務のヒントを探したいという期待があった。知識をただインプットするのではなく、実践や受講者同士での対話を通して色々な角度からリーダーシップを考える場がある点に大きな魅力を感じていた
- 権限のないリーダーシップは学ぶことができるということに興味があった
- これまでの経験の中で体験と共に学んでいたことを論理として学び直したかったため

Q. プログラムの中で特に印象に残った内容と、その理由について教えてください

<2020 年度修了者>

- 受講生が本当に熱心に関わっていたこと
- SBI フィードバック、ファシリテーション（ビジネススキルとして学んだことがなく受講後も役立っているため。もっと時間が欲しいと思いました）
- 質問力、プロジェクト相互コーチング
- 最終課題を創り上げていく過程：
 - ・自分だけでなく、メンバーの企画と一緒に考えることで様々な知見・考え方を学ぶことができた
 - ・ファシリテーションなどのスキルを発揮し、フィードバックをもらう機会が多くあった
 - ・メンバーとのやり取りが増えてきて、自分自身を見つめなおす機会が多くあった
- ファシリテーションの組み立て方については、これまで自分が意識していたものよりかなり精緻に考えられており、今後の実務で生かしていけると思った
- 受講者同士のフィードバック（相互支援が体現できたため）
- ファシリテーション設計、これまでの学内の会議運営には全くなかった発想だったので自身の会議運営に活用しようと思った。前向き質問、学生及び教員とのコミュニケーションに役に立つと思う
- 質問会議：①個人の問題解決が他者により導かれることにより、相互の理解と支援が必然的に生まれる仕組み、②短時

間で効率的な学習成果が見込まれる、③リーダーシップ最小三要素の経験学習がしやすい④、質問という行動のために、観察と思考と伝え方が訓練される

<2021 年度修了者>

- 質問会議。質問だけで問題を解決するという点が自分の中で新しく、また効果を感じたため
- 最終プレゼンの前週の授業。自分たちの学びとなる時間の使い方を自分たちで考え実践する形式だったため
- 最終課題、同期全体でのブラッシュアップを経過で見ることができ、集大成となったため
- ペアワークやグループワークの多さが印象的であった。またその相互フィードバックの価値がよく分かりました
- 質問会議が印象に残っています。理由は、質問することとフィードバックのパワーを実感できたからです。前向き質問や質問会議を通して、役職者などへ反対意見を発する際は自分の意見を述べるだけでなく、視点を変えたり相手の考えを引き出したり、質問して導くことができることなど学びが大きかったです。また経験学習サイクル理論も印象的です。内省に他者からのフィードバックを活用することは今後実務で取り入れていきます
- 各講義のグループワーク。受講者同士で、互いの学びを引き伸ばしていたと感じたから。理論を学んで終了ではなく、すぐに試してその難しさや面白さを体感する過程が確保されていた点が非常にありがたかったです
- ファシリテーションとフィードバック。経験によるところが大きかったが、理論を学ぶことで、業務にすぐに活かすことができたので

Q. 今回の学びを仕事のどんな場面で活かそうですか

<2020 年度修了者>

- 仕事の理論の構築
- 会議、企画立案、階層別教育への反映
- 組織開発や改革を伴うプロジェクトの計画・実行する際
- 仕事の会議をする際、ファシリテーション設計シートやスキルを活用できる
- 人材開発の企画や実際の研修などで学んだスキルや知見を活用できる
- 新しいことを始めようとするときに役立つと思う
- 自チームの組織運営と自身の講義に反映できる
- 学生指導、学内の会議運営、学生アシスタント育成の授業やゼミ運営
- 身近な家族の相互理解や成長支援として活用予定

<2021 年度修了者>

- そのまま教員研修に組み込もうと考えています
- あらゆる場面
- 社内外コミュニケーションの際
- 様々な場面でのフィードバックと、若い層へのリーダーシップ開発の支援
- 最終課題を通して、所属チームに現状課題、ありたい姿、メンバーがどのようにチームに貢献したいかをヒアリングし、問題を共有しました。「最終課題」を提出するだけに終わらせるのではなく実際に、最終課題で考えた企画を進めていく予定です。また得た知識やスキルは身につけただけでは意味がないので他者にとっていい影響になるよう発揮していきます

たいと思います

- 受講中から、自部署業務である若年層向け研修プログラムに、学んだ要素を部分的に取り入れてきました。中でも、目標設定→実践→振り返りという流れは、来期以降はプログラムのスタンダードとしていきたいと考えております。
- 修了後すぐに、同期の方とタッグを組み、有志の若手教員に向けたリーダーシップ開発プロジェクトをスタートさせました。講義で学んだことをもう一度整理しながら、自分なりに周囲へ還元していきたいと考えています。業界・業種が異なるため緊張感もありますが、どんな化学反応が起こるか今から大変楽しみです

Q. 今後受講を考えておられる方にメッセージ

<2020 年度修了者>

- 同じ内容でも自分自身の目的や学ぶ意欲によって大きく変わるプログラムだと思います。目的意識を忘れず、自分と仲間の学びの最大化のためにアクションできれば、とても有意義な時間になるので、ぜひ挑戦してみてください！
- このプログラムを受講することで、仕事や日常生活における自分自身のあり方や人との関わり方を見つめなおす機会が得られます。また、関係を深めるメンバーにも出会えます。仕事や対人関係をよりよくしていきたいと考えている方にはぜひ、受講していただきたいと思います
- 学びを自分のものにするかしないかは自分次第です！
- 受講生主体の授業、仲間との学びが中心で、受講する価値はあります。時間的に制限のある方は、かなり無理をしないと課題をこなすことが難しいかもしれません
- 受講生のリーダーシップの発揮が尊重されるため、講師陣に授業に関する提案をしていくことをお勧めします
- この講座は、目標に向かい他者に影響力を発揮できるようになるための知識やスキルを学ぶとともに、自分自身のリーダーシップ開発が同時に派生する。他者を支援できるようになるには、自分自身を認め開放していくことが前提である。わかっていることとできることの違いを模索し実践しながら、メンバーとの相互支援も組織開発の学習として学ぶことができる。そのため 120 時間は自分自身の生涯学習の入口とも言える

<2021 年度修了者>

- 120 時間で新たな「自分」になれます！大人も学び続けられるし、変わることができるということを実感しました
- この 120 時間をこれから体験できることが羨ましく思います
- 既に考えていらっしゃるなら、受講してみることをおすすめします！ひとりひとりの総和で作っていくプログラムなので、困ったことが出てきたとしても後からなんとでもできます
- 大変だけど走り始めると直ぐです。相互支援で乗り切れます！
- 組織に不満や悩みを持っている方は、是非、受講してみよう。不満や悩みを提案に変える自分に会えると思います
- リーダーシップを集中的に学ぶことができる。学んだことを実践して内省することをおして、他者とのかかわり方が徐々に変化する。自分の変化を楽しむことができる講座です
- 職場でのコミュニケーションから組織開発まで、今足りないと感じている問題の解決への糸口が見つかるかも！？